

八戸工業高等専門学校

同窓会会報

八戸高専同窓会 第46号

同窓会会報 46号の目次

地域テクノセンター改修	1	私のお仕事紹介します	8
会長あいさつ	2	学内ニュース	9
校長あいさつ	3	コースからのメッセージ	16
支部会報告	4	令和2年度 事務局短信	18
同窓生の褒章受章報告	6		

地域テクノセンター改修



令和2年4月に地域テクノセンターを改修しました。
地域の研究拠点として、益々の発展を期待します。

会長あいさつ

～コロナ禍における同窓会～



【同窓会会長 舘山 勝 (Z6)】

同窓会会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染が拡大しつつあるなか、不安な日々をお過ごしのことと思います。加えて、地球温暖化の影響がいよいよ顕在化し、予想を超える酷暑で外出もままならず、心身ともに鬱陶しい日々をお過ごしのことと思われまます。ここに、謹んでお見舞い申し上げます。

私自身も埼玉在住で勤務地が東京ということもあり、日々、感染リスクに晒されている状況にあり、1日も早い収束を心より願っているところでございます。

さて、このような状況を受け、同窓会におきましては7月11日(土)に八戸高専大会議室で開催された令和2年度評議会において、今年9月に八戸において開催が予定されていた第26回総会の開催の可否について議論したところでございますが、今回については、会則の改定や役員改選など、総会での審議事項も無いことから、コロナ感染の地方への広がり等に配慮し、総会の開催を見合わせることにしました。なお、7月の評議会は、コロナ禍の影響により、参加できなかった評議員もたくさんおられ

たこともあり、当日の会議資料及び議事録を同窓会のHPに掲載 (<http://www.hachinohe-ct-dsk.jp/archives/743>) いたしました。是非、ご一読頂きますよう、よろしくお願いいたします。

コロナ禍がもたらした社会変化としては、人々が都市封鎖や在宅勤務(学習)を経験し、新しいコミュニケーションツールやコラボレーションシステムが進化したことが挙げられます。また、これまで当たり前と思われてきた、通勤や出張、押印決済、名刺、現金といった人・モノを基盤とした職場や生活の常識が激変し、リモート勤務、Web会議、電子決済、キャッシュレス決済など、デジタル技術に置き換わりつつあることが挙げられます。さらに、これらの変化から、新しい生活様式や、これまで気づかなかった新しい価値観も登場しつつあります。このような、コロナ禍による流れは不可逆的で、より一層、加速することが予想されます。同窓会におきましても、これまでHPのリニューアル、名簿のデジタル化などを進めてきたところでございますが、今後は、より一層、デジタル化を進め、コロナ禍がもたらす新たな社会へ対応する必要があると考えております。ご理解・ご協力の程、何卒、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、長年、同窓会の理事・評議員を歴任されました工藤力様(E2)が、2019年秋に黄綬褒章を受章されました。春に受章された橋場寛副会長(M5)に続き、二人目の受章です。黄綬褒章とは、「第一線で業務に精励している者で、他の模範となるような技術や事績を有する者」を対象に天皇から授与される大変名誉ある顕彰であります。ここに謹んでお祝い申し上げます。(2020/8/24 原稿受領)

校長あいさつ

令和2年は新型コロナウイルス問題で始まりしました。3月12日WHO（世界保健機構）のパンデミック宣言などにより、3月18日の卒業式も残念ながら中止せざるをえなくなりました。

こうして令和2年度は異例な状態で学校が始まりました。入学式は3密を避けた短縮で行い、保護者の皆様はビデオ実況による参加となりました。始業式は校内放送で行いました。

本校では、4月20日から全学年・全学生に対して、時間割通りの遠隔授業を実施しました。この遠隔授業は、全学年の学生891名に対して、1週間に439の遠隔授業を時間割通りに実施し、全学生が大きな問題もなく参加しました。

この遠隔授業の全校展開は、教育に対する熱意をもって、不慣れな遠隔授業に膨大な時間を費やした本校教職員の努力なくしては、不可能でした。また、ほとんど欠席せず、まじめに授業に参加してくれた学生にも感謝します。

本校の遠隔授業はオンデマンドによる録画配信なので、学生は分からないところを繰り返し再生することができます。授業録画を毎回止めて内容をノートに記録していた学生もいたようです。

一方、全国高専の中ではトップクラスの早さで、6月8日から、対面授業を全面的に再開しました。学生が元気で授業を受けている学校の素晴らしさを改めて実感しています。学校再開にあたり、保健室の看護師の協力も得ながら、「感染症対策指針」を作成し、校内での除菌や感染対策などを行いながら、学校生活を行っていました。

これからも新型コロナウイルスとの戦いは続きます。皆で協力して、感染リスクを回避しながら、教育・研究を行うことが求められています。青森県外に在住の卒業生の皆様には、ご子息に八戸高専に入学して頂きたいと考えております。県内に



【特別会員・学校長 圓山 重直】
(まるやま しげなお)

在住のご親戚がいらっしゃる場合には、ご子息の進学先の一つとしてご検討頂ければ幸いです。

春学期に実施した遠隔授業コンテンツは、約2000に及びます。これらの授業コンテンツの活用を検討しています。その一つとして、遠隔授業コンテンツの多言語化を試みています。コロナ問題が高専教育を大きく変える転機になるかもしれません。

令和元年度の本校の人事異動ですが、高橋要教授、赤垣友治教授、佐々木有教授が令和2年3月31日をもって定年退職となりました。先生方の本校への永年のご尽力に敬意を表するとともに、心からの感謝を申し上げます。

令和2年1月1日に総合科学教育科岡田みゆき特命准教授、令和2年4月1日に総合科学教育科中村雅徳准教授、長谷川耕平准教授、佐伯彩助教、機械システムデザインコース田口恭輔助教、環境都市・建築デザインコース李善太助教が赴任されました。今後のご活躍を祈念致しております。

同窓会の皆様には、今後とも本校発展のために一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

支部会報告

東北支部より

【八戸高専同窓会東北支部長 大木 英人】

同窓生の皆様にはコロナ禍の中、何かと不自由な生活を強いられているかと思いますがちょっと明るい話題を提供させていただきます。

同窓会会長の館山氏から要請があり昨年秋に東北支部長を拝命したZ6の大木です。しばらく途絶えていた八戸高専同窓会東北支部の活動を再開しましたのでご報告します。

私自身が同窓会との縁がなく同窓会メンバーの情報がない中で、Z7の瀧内氏の献身的なバックアップに助けられ令和2年2月21日（金）に仙台市内で活動再開の懇親会を開催しました。

私も瀧内氏も土木工学科OBなのでとりあえず仙台市近郊の土木の同窓生の方に声をかけ土木1期生から46期生までの幅広い年齢層で女性2人を含む21人に出席をいただき館山会長も東京から駆けつけてくれました。

懇親会は、大部分の参加者が初対面ということで始めはお互いにぎこちない会話でしたが、すぐに仕事や学生時代の話題に花が咲きあつという間に閉会の時間となりました。締めの挨拶では1期生小森様から次回以降の開催を熱望されました。

これからは、参加者を全学科に広げ公私にわたる情報の発信・収集の場としてこのような会を毎年開催できればと思っています。

興味のある同窓生のかたは、下記メールアドレスに連絡いただければ活動状況等をご提供いたします。

八戸高専同窓会東北支部 大木英人 (E-mail : sa_ookihidehito@city.sendai.jp)



東北支部活動再開の集合写真

関東支部より

【八戸高専同窓会関東支部長 戸田 和孝】

同窓生各位におかれましては新型コロナ禍にも負けずにご健勝のことと存じ上げます。

さて関東支部では同窓会活動の一環としてサロン会を開催しておりますが、都内での新型コロナ禍の終息が見通せないために現在は活動を自粛しております。

今年2月に開催予定でした、圓山校長先生に講師をお願いしておりました第41回サロン会も延期したままで、新日程も決められずにあります。この件、圓山校長先生をはじめ同窓生各位にも大変申し訳なく思っております。新日程につきましては、もうしばらくお待ちくださるようお願い致します。

あと、皆様にお知らせがあります。

同窓会活動で大変お世話になりました、大久保先生が本年3月末を持ちまして小山高専の学校長を定年退職し、八戸にお戻りになりました。今後も更にご活躍頂けるように祈っております。なお、大久保先生は八戸高専のC科5回生の同窓生でもおられます。

大久保先生に講師をお願い致しました第39回サロン会の際の集合写真を掲載致しますのでご覧下さるようお願い致します。大久保先生は最前列の真ん中に座っておられます。

関東支部では今後もサロン会等の同窓会活動を継続致します。以下のメールアドレスにご連絡いただければ随時、関東支部の活動情况等をメールにてご連絡いたします。

同窓生の皆様のご理解とご協力に感謝しております。

八戸高専同窓会関東支部 戸田和孝 (tod.kaz@2.dion.ne.jp)



第39回サロン会の集合写真

同窓生の褒章受章報告

令和元年春の褒章において、M5回生の橋場 寛さん（同窓会副会長）が黄綬褒章を受章され、また、同年秋の褒章において、E2回生の工藤 力さん（同窓会理事）が黄綬褒章を受章されました。お二方より受章に関するコメントを頂戴しましたので、以下に掲載いたします。

黄綬褒章受章(令和元年春) M5回生 橋場 寛さん

八戸高専機械工学科5回生として入学、学生生活を満喫して卒業。その後大学編入試験に挑戦するも思いを果たせず、父親の経営する工務店を手伝う事となり、住宅建設の世界に入りました。建築士、土木施工管理士等必要な資格を取得しながら、宅地建物取引士（主任）も併せて取得しました。これが、人生を左右するとは、思いもしませんでした。

その後、数多の状況の変化があり、昭和58年33歳の時不動産業界に入りますが、資格はあれど資金も実務経験もない状態でした。既に結婚していましたので、経営が安定するまでの間、女房には本当に苦労かけました。

不動産業界の調査をした結果、自分が取り組める形態は、賃貸住宅の管理と仲介に特化する事としました。が、当時青森県内でも専門とする会社はありませんでした。参考にしたのは、東京での成功事例でした。それも、不動産販売ではなく、管理と賃貸仲介の分野でした。

先輩業者から、それは不動産では無い。サービス業だぞ、言われた記憶があります。今では、普通な事ですが、あの頃は、全く理解してもらえませんでした。当時は、賃貸住宅の建設の勃興期で、借りたいお客様がいても、供給と紹介業務が噛み合わない状況でした。何が幸いするかわかりません。建築の経験と建築士の資格を生かし、借りたい方々の希望と、建てようとするオーナーの調整をしながら、管理するアパート・賃貸住宅が増えていきました。

不動産業界では、十和田支部での活動が役員の末席から始まり、青森県本部では、その内の団体の一つの監事から、理事となり平成28年に会長職を務める機会を得ました。平成29年に国土交通大臣表彰、全国中央本部の役員も務め、令和元年5月業務精励により黄綬褒章の受章となりました。気がつけば、不動産業に従事して35年の時が流れていました。

振り返れば、高専卒業から48年、あっという間でした。私は、北辰寮に5年間住み続けました。一番の思い出は、寮長になり、高学年寮生からの希望から、消灯時間撤廃のため、小出校長先生にお願いに行きました。確か、1ヶ月間寮生の無遅刻無欠席を条件に出されました。いつも、寮内の点検した後、校



長室に報告に行くのですが、私は遅刻続きであったと思いますが、なんとか許可をもらいました。今は、消灯時間が復活していると聞きましたが、これも時の流れでしょう。4年生の春休み、沖縄への旅行に出かける国鉄三沢駅で、小出校長先生の訃報をテレビで見た記憶が残っています。私の高専生活は、楽しくもあり大変なこともありました。それでも、良い環境と先生方、多くの友人知人に恵まれた最高の幸せな時間でした。

そして、今回、同窓会誌に載せて貰う機会を得ました。これまで縁をいただいた全ての皆様に、御礼を申し上げます。

これからも地域のため、不動産業界のため、努力を続けて参ります。
ありがとうございました。

黄綬褒章受章(令和元年秋) E2回生 工藤 カ さん

～令和元年秋の黄綬褒章を受章しました。～

コロナ直前の令和元年12月17日に法務省で黄綬褒章の伝達を受け、その後天皇陛下への拝謁という貴重な経験をさせていただきました。私にとっては、晴天の霹靂でした。いわゆる勲章は社会的地位の高い役職や、公職についていた原則70才以上の方に、褒章は、年齢を問わず一般人や団体で様々な功績のあったものに天皇から与えられるものと認識していたからです。管轄が法務省ですから、私の場合司法書士か土地家屋調査士としての実績になるわけですが役員歴は長くありませんでした。後日、日本土地家屋調査士会連合会前会長から強く推して頂いていたことが判明したのですが。土地家屋調査士が始めた法律経済関係総合事務所の先駆者としての実績が評価されたのかもかもしれません。



実は、同窓会が知らないだけで、既に同窓生の中には勲章・褒賞を受章されている方もおられると思います。又、これからも確実に出てくるはず。受章された場合、是非とも同窓会に通知して頂き、後輩達の励みにしていただければと思っています。

私のお仕事紹介します

「船を造るという仕事」

北日本造船株式会社
M41 小山 悟史さん

私は現在、北日本造船株式会社に勤めており、今年で勤続 10 年目になります。弊社は八戸市内に本社を持ち、八戸市内に 3 工場、岩手県久慈市に 1 工場を持っており、薬品などを運ぶケミカルタンカー、冷凍した果物などを運ぶ冷凍運搬船といった様々な種類の船を建造しています。

私は設計部の工作設計グループに所属しており、私のグループでは主に船殻(骨組)部材を取材するための NC 切断データを作成するという業務を行っています。その中で私はアングル材などの型鋼切断データと曲げフレーム作成を担当しています。船は曲線が多いため、直線の部材を曲げて製作しなければなりません。そのため、部材をどのようにどれくらい曲げればいいのか 1 本 1 本データを作成する必要があり、これはとても根気のいる作業となります。しかし、ここでミスをしてしまうと現場作業に直接的な影響を与えてしまうという、責任感の必要となる重要な作業でもあります。その一方で、自分が携わった箇所がどこなのかとても分かりやすい仕事でもあります。

そうして建造された船が引き渡された後、海外で運行されるととてもやりがいのある仕事だと感じています。



「情報通信系の高い技術力を保有する会社」

株式会社サンライズ・エー・イー
執行役員 経営企画部 部長
E18 瀧本 一男さん

私は、平成 19 年会社設立時から、経営企画及び経理担当として勤めております。

高専卒業後は関東にある大手企業に就職したのち、U ターンにて地元企業で習得した技術面から管理面までの知識・経験を活かし、現在の会社では経営状況の取り纏めを中心に、新卒・中途の採用活動から、取引先との契約・購買業務まで幅広く担当し、会社の経営に携わっています。

当社は ICT(情報通信技術)をベースに新技術を駆使したシステム・ソフトウェアの受託開発を行っており、先進技術を早期に取り込む独立系の会社です。最近ではクラウド AI サービスを始め、量子コンピュータ技術の習得にも力を入れています。

企業は「如何にして儲けを出すか」が重要であり、そのために何が原因で利益が少ないのか月次毎に分析を重ねていくうちに、単に売上げを増やすだけでなく、如何に必要最低限の経費に抑えられるかが重要であることを実感しています。

今の時代、大企業に入社したから安泰だと言えません。また、中小企業の中にも優良な企業はたくさんあります。その中で、自分の立場で何をすることが会社にとって一番重要なことなのかを常に考え、自分の仕事にプライドを持って取り組むことが大切であると思っています。



学内ニュース

定年退職教員のご挨拶

【総合科学教育科 教授 高橋要先生】

～ I Shall Return! ～

私が八戸高専に赴任したのは、昭和 61 年 4 月でした。以来ずっとここにいました。10 箇月間だけ英国オックスフォードと米国ロサンゼルスに文部省在外研究員として八戸を離れ



ましたが、それ以外はずっと八戸高専にいました。その間ほとんどの学生を卒業までに一度は授業を担当したでしょう。もし皆さんの中で、そんな奴は知らない、という方がおられたら、貴重な存在かもしれません。印象が薄くて、授業を受けたかもしれないが忘れてしまったという方のために、平成 10 年（1998 年）頃の写真を掲げておきます。現時点の写真を載せるのが普通なのでしょうが、思い出す縁にしてください。

さて、何を話しましょう。実は、3 月 2 日の学年修了式で在校生に退職の挨拶をする予定でした。私にとっては在校生も、もう皆さんと同じ「同窓生」です。そのつもりで話そうと思っていました。でも、新型コロナウイルスの影響で修了式そのものが中止になってしまいました。ですから、そのときに話そうと思っていたこととお話ししようと思います。

34 年も経つと世の中も学校もすっかり変わってしまっています。ですから、学生の変わりよ

うは、ちょっと信じられないくらいです。赴任当時の学生は現在 49～54 歳になっておられるでしょうか。あの頃にも外国人の講師の先生がいらして、見学させてもらったのですが、ごく簡単な質問にも学生たちは答えられませんでした。後から聞くと、答えは分かっていたけれど恥ずかしくて何も言えなかった、とのこと。純朴でした。また、28 年ぐらい前に寮の主事補をした時など、年間の指導寮生数は延べ 400 人を超えていました。今の 10 倍以上です。当然、停学者も多く、退学になる者だって珍しくありませんでした。やんちゃでした。

皆さんは、自主探究ポスター発表会というのをご覧になったことがありますでしょうか。外国人のお客さんに対して、今の学生たちは堂々と英語で説明し質問に答えています。また、ここ 10 年ほどは問題行動で退学になったという話は聞きません。まして、先生に反抗するなどということはありません。とっても「いい子」です。「俺も悪いが、先生だって悪い」「私のどこが悪いんだ」「先生の、その叱り方が悪い」というやり取りが懐かしく思い出されます。

それでも、ずっと変わらないでいることがあります。論理的推論能力の高さと素直さです。A なら B だ、B なら C だ、だから C だ、と推論していく力は、「頭のよさ」の指標の一つとされています。八戸高専生は今も昔もずっと、優秀です。中学校の時も高専に入ってからあまり勉強しないので、いわゆる「学力」は高くないかもしれませんが、頭脳は間違いなく優秀です。そして、とっても素直です。誤解しないでください。性格が素直と言っているものではありません。物事の受け止め方やものの見方に偏見が少ない。変に穿った見方をしないで、真っ直ぐに

見て受け止める。野村先生、平川先生と次々に退職なされて、最近では私が現代社会や哲学を担当しているので、それがよく分かります。

こういった特質は、良い面ばかりではないでしょう。しかし、私はこれこそが八戸高専生の「強み」だと思っています。よく、高専の常識は世間の非常識、なんて言いますが、そんなことを言っているのは自分たちだけです。もっと胸を張って、堂々と生きて行ってほしい。私はあんまり長生きできそうにないですが、生きている限りは皆さんを応援していきたいと思っています。ですが、ひとまず今はお別れを言っておきましょう。皆さん、さようなら！

【産業システム工学科 機械システムデザイン コース 教授 赤垣友治先生】

～ 八戸高専での思い出 ～

八戸高専 M10 回生の赤垣です。昭和 52 年 3 月に機械工学科を卒業後進学し、昭和 56 年 4 月から山形県にある鶴岡高専に就職し 10 年間勤務しました。



ご縁があり、平成 3 年 4 月に八戸高専に転勤、29 年間勤めさせていただきました。八戸高専では、同窓会事務局一員として同窓会活動に関わらせて頂きました。会員の皆様には、同窓会活動のご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

39 年間の高専教員生活の中で、人事交流制度発足初年度に宮城高専に 1 年間単身で赴任、文科省在外研究員としてオハイオ州立大学 (USA) に 10 ヶ月間、フランスに 2 ヶ月間派遣して頂き貴重な経験をさせていただきました。海外での生活と研究活動は、帰国後の教育研究活動に大きな影響を与えたと感じています。

聞くところによれば、一生涯でとても親しくなる知人・友人の数は概ね 250 人だそうです。これまでの教員生活を振り返ると、多くの方と出会い、ご指導頂き、また助けて頂きました。

就職、転勤は恩師の先生のお陰、研究活動を継続できたのはサポートして下さった会社と卒論生や専攻科生のご協力のお陰、校務をなんとか無事にこなせたのは本校全教職員の皆様のお陰、保護者の皆様のご支援のお陰。授業ができたのは真面目に受講して下さった優秀な学生の皆様のお陰、39 年間元気に勤務できたのは、家族のお陰、健康のお陰。そして同窓会会員の皆様のお陰。すべてに感謝です。有難うございました。

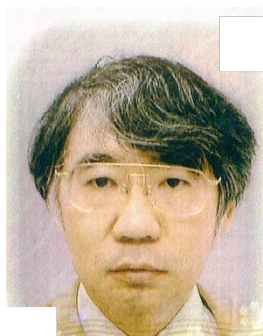
学位取得を目指して学校に泊まり込んで実験をした鶴岡高専助手時代、卒論学生と一緒に深夜まで実験をしたこと、ロボコンで毎日夜遅くまで頑張る学生のヘルプをしたこと、卓球部顧問として卓球部員と県内外に何度も遠征したこと、担任や学科長として就職や進学のお世話ができたこと、教務主事として 4 学期制、自主探求等々に関わったこと。研究発表で国内外に出張したこと、特に海外で開催の国際会議の道中ひとり旅は楽しく、刺激的で何度も発表に出かけました。すべていい思い出です。

定年後、令和 4 年 3 月までの 2 年間は、再雇用教員として勤務をしております。教員室は前と同じ機械棟 4 階です。八戸にお出かけの際には是非お立ち寄りください。

最後に、八戸高専、そして八戸高専同窓会の益々の発展を祈念し、定年のご挨拶といたします。

**【産業システム工学科 マテリアル・バイオ工
学コース 教授 佐々木有先生】**
～ 物質工学科とともに歩んだ四半世紀 ～

本年3月末日をもって八戸高専を定年退職し、コロナ禍の最中の6月にひっそりと八戸を離れて(財)残留農薬研究所在職時に購入した埼玉県入間市の自分の家



に帰りました。平成3年5月の着任以来の27年間、八戸高専にはお世話になりました。この27年間、学校運営に関わる校務にあたることはありませんでしたが、担任、特に5年の担任を務めることが多かったと思います。最初はC科1期生の4、5年次担任を、最後はCコース1期生の5年次担任を務め、彼等と一緒に卒業しました(コロナ禍で卒業式は吹っ飛びましたが)。重い校務にあたらなかった分、十分に研究させていただき、この27年間悔いなき研究生生活をおくらせていただけた八戸高専に感謝いたします。赴任する前は(財)残留農薬研究所とファイザー製薬㈱において、化学物質の安全性評価に携わってきました。36歳のときに八戸高専で工業化学科から物質工学科(C科)改組に伴う生物系教員の公募があり、それに応募したところ採用されて赴任しました。改組後のC科1期生が3年生になって生物系専門科目開設に合わせた赴任で、C科最後の学生の卒業を昨年見届けての退任です。専門は毒性学ですが、一般生物から専門の生物系科目まで生物系科目を広く担当してきました。生物系の中でも、分子生物学は発展途上の分野で、最新の知見を授業にとりいれるべく研究論文を読み漁って明け方までかかって講義資料を作った苦労も思い出の一つです。八戸高専では赴任当初からボスのいない研究室を持つことができ、充実した研究キャリア

を積むことができ、退任までに100報を超える研究論文を書くことができました。研究テーマの中でも多臓器コメット法に関する研究では日本環境変異原学会から研究奨励賞をいただくことができました。本校在任中には内閣府食品安全委員会農薬専門調査会の専門委員を10年間にわたって委嘱され、毎月1回の東京での調査会に出席することもありました。ここで得たりスク評価の実務経験は、本校で担当していた「防災・安全」の授業に役立てることができました。はからずも、毒性屋として産官学の3極全部に携わることとなりました。

長年の共同研究者である姫路独協大学薬学部の中村隆典教授とタイアップして拓いた企業給付奨学金が得られる同大学への編入学のルートで、現在までに、6名の卒業生が薬剤師を目指しました。最初の1名は、一昨年、薬剤師国家試験を突破して岡山市で調剤薬剤師として活躍しています。今までの高専の進路にはなかった薬剤師という新たな進路を卒業生に提供できたことも大きな思い出となっています。私の退任後はこのルートの窓口を川口恵未先生が引き継いでいるので、これからも多くの学生が薬剤師の道を目指してくれれば幸いです。

昨年12月には、初めて担任をもったC科1期生の有志に退職祝賀会を開催していただき、久しぶりに再会しました。立派な社会人となっている彼等の姿を見て嬉しく思うとともに、本校在職の年月を感じました。ここまで、何とかやってこられましたのも、教職員、学生、保護者の皆様のお力添えがあったからこそと感謝しています。長い間、本当にありがとうございました。本校卒業後は姫路獨協大学薬学部の客員教授として本校からの編入学生を受け入れる立場となります。認知症予防のためにも薬剤師育成のお手伝いをしながら、趣味程度に研究を続けていきたいと思っています。

新任教員紹介

【総合科学教育科 准教授 中村雅徳先生】

令和2年4月1日付で総合科学教育科に英語科教員として着任いたしました。専門は高エネルギー天体物理学で、宇宙ジェットと呼ばれる、活動銀河中心核の超大質量ブラック



ホール近傍で生まれるプラズマ噴流の解明です。二戸市出身で、小3から高2まで二戸で育ちました。東京理科大学で博士号を取得後、米国NASAジェット推進研究所、ロスアラモス国立研究所、ジョンズ・ホプキンス大/宇宙望遠鏡科学研究所、そして臺灣中央研究院天文及天文物理研究所に所属しておりました。

ブラックホール影を撮像する「イベントホライズン望遠鏡」国際計画の臺灣創立メンバーの一人として、グリーンランド米国空軍基地内で電波望遠鏡運用を目指したプロジェクトに10年ほど携わりました。私の役割は、昨年4月に世界6カ国同時記者会見で世間を賑わせたブラックホールの影撮像成功で有名になった活動銀河M87の国際的な研究拠点を臺灣に作ることでした。お陰様で仲間と成果に恵まれ、一区切りがつけられました。

今春18年ぶりに帰国、さらには30年ぶりに馴染みのある場所に戻ってまいりました。これまでの様々な経験を活かし、これから国際社会に羽ばたいていく北東北の若い世代をサポートしていきたいと考えております。また、長年の海外研究活動で得た知見や国内外の学生との研究交流を基に、八戸高専の学生諸君の探究心を大きく育む教育活動を展開していきたいです。どうぞよろしく願いいたします。

【総合科学教育科 准教授 長谷川耕平先生】

令和2年4月1日付で総合科学教育科に着任しました長谷川耕平と申します。物理を担当いたします。専門分野は素粒子物理学の理論的研究です。2012年にスイスの大型



ハドロン衝突型加速(LHC)で発見されたヒッグス粒子の起源や2000年前後に日本の実験施設スーパーカミオカンデにて確認されたニュートリノ振動現象を説明する模型を探索しております。さらにLHCで発生する素粒子反応の高精度の予言についても研究しております。来歴としましては博士号を取得してからカナダ、ドイツ、インドにてポスドク研究員として10年ほど滞在し研究を重ねてきました。そして5年ほど前に帰国してから神戸大学にて研究を続けてきました。

上述の神戸大学に所属している間は講師として高校と大学にて物理を教えました。そこでの教育経験から学生の理解度、実力をよく見てそれに合わせて授業することを覚えました。高専を卒業されて企業・学術の第1線で活躍されている方を何人も知っております。その方々はもちろん個人の能力もありますが質の高い教育を受けてきた印象がありました。私も高専での教育を担う立場になり責任重大と感じております。専門の工学科目にうまくつながるように工夫していきたいと考えております。大先輩であります本高専の先生方から機会があればいろいろと学ばせて頂きより効果的な教育になるように改善したいと思います。

【総合科学教育科 助教 佐伯彩先生】

令和2年度4月1日付で、総合科学教育科の社会科(歴史)担当教員として着任しました、佐伯彩です。着任以前は、奈良女子大学で博士号を取得後、同大学で博士研究員として活動しつつ、大阪の私立学校3校で非常勤教員として、高校世界史などを担当していました。専門は近代中東欧史です。対象地は、旧ポーランド王国領である、「ガリツィア」と呼ばれる地域です。この地域は、ポーランド人貴族が大きな政治的影響力を持っていました。現在、彼らがその政治的影響力を背景に支配者であるオーストリアから、どのように自治を獲得していたのか、研究を進めております。



今回、八戸高専で勤務できたこと、大変うれしく思います。これまで生活の拠点としていた関西とは異なる文化圏ということもあり、どのような文化に触れることができるのか楽しみにしておりました。着任当初は、とにかく「寒い!」と感じたのですが、八戸の文化的環境が、思いのほか私の研究している地域と類似点が多く、そうした類似点を探すことに楽しみを見出しています。

社会は、「暗記もの」という一面的見方から、苦手意識を持つ学生が多い科目です。しかし、その見方はあくまで一側面に過ぎず、主な目的は、社会における多様性の理解です。多くの学生が社会に対して多様な見方を持つことのできるよう、努力していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

【産業システム工学科 機械システムデザインコース 助教 田口恭輔先生】

令和2年4月1日付で機械システムデザインコースの教員として着任しました田口恭輔と申します。私はここ八戸高専の機械工学科を卒業し、長岡技大にて修士を取得、RICOH



グループの印刷機部門開発グループにて経験を積み、前職の一関高専では技術職員として技能教育に従事してきました。その際、社会人枠として岩手大学にて博士号を取得し、今回ご縁があり古巣である八戸高専へと戻ってまいりました。これまで技術系の職や技能に関する指導といった業務を行ってききましたが、ここでは教員として技術の“知識を指導する”という点に注力したいと思います。時代の進化と共に学生の勉強スタイルやツールが大きく変化している昨今、“これまで”といった古いしがらみに囚われない授業スタイルを模索し、ひとりでも多くの学生が勉学や研究活動の中から楽しみを見つける手伝いができれば幸いです。

研究活動ではものづくり技術における加工学として超音波振動援用加工が材料に与える影響による調査を行ってききました。通常の切削加工時に刃物に振動を与えるとその切れ味が増すことが広く知れ渡った今日、振動与えるとなぜ切れ味が増すのか、工具・材料にはどのような影響があるのか、この技術がどんなことに応用できるのか、そのようなことを日々考えております。ものを造りその技術・知識を伝える者として一步ずつ前に進んでいきたいと思っておりますので、是非ともよろしくお願いたします。

【産業システム工学科 環境都市・建築デザインコース 助教 李善太先生】

令和2年4月1日付で環境都市・建築デザインコースの助教に就任いたしました、李善太（イー ソンテ）と申します。母国である韓国から2010年4月に京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻の修士課程として来日し、2015年3月に博士（工学）号を取得して以降、2017年4月から着任前までは、茨城県つくば市に位置する国立研究開発法人 土木研究所 材料資源研究グループにて3年間研究を行ってまいりました。今年で日本での生活は11年目となりますが、実は私と同様に父も日本で留学しており、私が4歳の頃から12歳までの8年間を名古屋で暮らしていたので、この期間を合計すると18年となり、ちょうど私の人生の半分は日本に居たことになりました。



専門は水環境工学で、下水の再利用や、水中の健康関連微生物に関する研究に取り組んできました。学生時代より現場調査を主とした研究が中心であり、今後も水環境の現場を見てデータを取りつつ、考察することを重視していきたいと考えております。青森県は豊かな水環境に恵まれており、行政上の水質も良好とみられておりますが、近年の新型コロナウイルスの問題を含め腸管系ウイルスのような未規制リスク因子の影響にも着目すべきだと考えております。そのため、高専での教育・研究においては、このような水環境を対象とし、現場観察、水質計測、リスク評価を行わせることで水環境分野・環境工学分野への関心を高めていくと同時に、八戸市を含め地域環境の保全・改善に貢献したいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

令和元年度後半の学内ニュース

本田宗一郎杯 Honda エコマイレージチャレンジ 2019年 第39回全国大会（エコラン）

令和元年9月28日（土）～9月29日（日）にツインリンクもてぎを会場として行われた第39回全国大会において、八戸高専自動車工学部 NP号IVが、高専・大学・専門学校生クラスで第3位記録は1647.815^{*}）、八戸高専自動車工学部 RS号が第6位（記録は1516.809^{*}）といずれのチームも上位入賞を果たした。



全国高等専門学校 第30回プログラミングコンテスト

令和元年10月13日（日）～14日（月）に宮崎県都城市 総合文化ホールで行われた全国高専プログラミングコンテストにおいて、八戸高専の「踊らないエージェントは左遷」が競技部門で準優勝、「CanGakki 一組み替え可能な知育管楽器ー」が自由部門で特別賞を受賞した。



令和2年度前半の学内ニュース

第57回東北地区高専体育大会

第57回東北地区高専体育大会(ラグビーフットボール除く)は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

なお、ラグビーフットボール競技につきましては、開催予定となっておりますが、本校は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、参加はいたしません。

第55回全国高専体育大会

第55回全国高専体育大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

令和2年度後半 各種大会日程等

第33回 アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2020(高専ロボコン)

「第33回 アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2020」はロボコン史上初めての「オンライン開催」となります。

課 題：『はぴ☆ロボ自慢』

東北大会：10月18日(日) オンライン開催

全国大会：11月29日(日) オンライン開催

本田宗一郎杯 Honda エコマイレージチャレンジ 2020年 第40回全国大会(エコラン)

10月3日(土)～10月4日(日)にて開催を予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大による対応として開催中止になりました。

全国高等専門学校

第31回プログラミングコンテスト(プロコン)

第31回苫小牧大会は現地開催を中止し、課題部門と自由部門のみオンラインで実施します。

メインテーマ：「北の大地で拓け！ICTミライ」

本 選：10月10日(土)～11日(日)

(主管校 苫小牧高専)

第17回 全国高等専門学校デザインコンペ ティション デザコン2020 in 名取

メインテーマ：「ゆい」

本 選：12月5日(土)～6日(日)

会 場：名取市文化会館※

(宮城県名取市 主管校 仙台高専名取C)

※現地開催となるかオンライン開催となるかは現時点では未定です。(9月末に決定する予定)

コースからのメッセージ

機械システムデザインコース

【進路状況】 令和元年度機械工学科を卒業した36名の進路は、就職26名、進学10名でした。就職者のうち県内就職者数は5名(19%)でした。進学者のうち3名は専攻科に進み、更に2年間、本校において勉学に励みます。専攻科の修了生は5人で、全員が就職しました。なお、求人倍率は本科33倍、専攻科152倍で、求人状況は良好です。令和2年度は、本科43名、専攻科9名が卒業修了予定です。本科は27名が就職希望、16名が進学希望です。専攻科は7名が就職希望、2名が進学希望です。

【本コースの状況】 長らくお勤めになられた赤垣友治教授がこの3月で定年となりました。また、4月には2008年3月卒の田口恭輔さんが助教として赴任されました。

【終わりに】 コロナ禍のため、本校では、4月20日から6月5日にかけて自宅待機の学生向けにオンライン授業を行いました。また、高専体育大会など学生が楽しみにしていた行事等も大半が中止となりました。皆様も大変ご苦労なさっていることと存じます。お見舞い申し上げるとともに、これまでと同様に本コースに対するご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(機械システムデザインコース長 村山和裕)

電気情報工学コース

【進路状況】 昨年度は、本科卒業生33名中23名(70%)が就職、10名(30%)が進学という進路となりました。なお、求人数は858社で、求人倍率37倍となっております。専攻科は修了生8名中6名が就職、2名が進学で、東北大学大学院へ1名、奈良先端科学技術大学院へ1名進みました。本校専攻科には7名が入学いたしました。

今年度の5年生は、現時点で就職希望が24名(69%)で、昨年に続き、順調に就職活動を進めております。一方、進学希望は11名(31%)で、そのうち5名が本校専攻科に推薦合格しました。

【学生の活躍】 プロコンでは競技部門が「準優勝」の快挙、自由部門は「特別賞」とダブル上位入賞しました。ダブル上位入賞は2002年の石川大会以来です。また、パソコン甲子園でも11年ぶりに本選に2年生チームが出場しました。専攻科では、2019年安全・安心な生活とICT研究会において研究奨励賞を受賞しました。

【最後に】 卒業生・修了生の皆様方には、多方面に渡りご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。こちらにお越しの際は是非とも母校へお立ち寄りいただき、近況をお聞かせください。皆様方のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(電気情報工学コース長 熊谷雅美)

マテリアル・バイオ工学コース

【進路状況】 マテリアル・バイオ工学コース卒業生は39名（男20女19）で、就職22名（男8女14）、進学17名（男12女5）でした。専攻科修了生は7名（男3女4）で、就職3名（男1女2）、進学4名（男2女2）でした。専攻科修了生の進学先は、東北大学大学院、東京工業大学大学院にそれぞれ2名です。

今年度の本科5年生は34名（男18女16）で、就職希望15名（男7女8）、進学希望19名（男11女8）です。専攻科2年生は10名（男8女2）で就職希望2名（男1女1）、進学希望8名（男7女1）です。

【見学旅行】 昨年度の4年生の見学旅行は、11月5日（火）～8日（金）の期間で、日本製鉄（株）君津製鉄所、JXTG エネルギー（株）中央技術研究所、サントリープロダクツ（株）綾瀬工場、（株）日本色材工業研究所 座間工場、東京農工大学工学部化学システム工学科を見学させていただきました。それぞれの訪問先では高専OBの方々にも説明に加わっていただきました。ご協力、有難うございました。

【主催イベント】 中学生向けの「化学の学校」は、はじめてWEB開催としました。コースのHPで紹介していますので、ぜひご覧ください。

【最後に】 昨年度、新型コロナウイルスの影響で卒業式は中止となりとなりましたが、マテリアル・バイオ工学コースとなつてはじめての卒業生を送り出しました。また、佐々木有先生が退職され、今年度は非常勤で授業を受け持っています。今年度もウイルスの影響は続いており、授業はオンラインで受講したり、イベントは中止となつたりなど、学生は例年とは異なる学校生活を送っています。一方で、就職・進学の活動は大きな影響もなく進み、安心しております。今後とも、卒業生の皆様のご支援よろしくお願ひ申し上げます。（マテリアル・バイオ工学コース長 齊藤貴之）

環境都市・建築デザインコース

卒業生の皆様には、日頃より本コースへのご支援をいただき、大変お世話になっており、心よりお礼申し上げます。最近の本コースの状況を簡単ではございますが、説明させていただきます。

【進路状況】 この3月に初めて本科、環境都市・建築デザインコースの卒業生36名を送り出しました。21名が就職、15名が進学しました。就職の内訳は、3名が公務員であり、昨年引き続き、公務員希望者は少なく、ここ10年の平均では、進学4割、公務員2割、企業4割となっています。企業就職者は、鉄道、電力、水道、ゼネコン、建設コンサル関連等に就職しています。これらのうち、青森県内企業、機関に就職した卒業生は4名でした（H31年3月卒は3名）。進学者は本校専攻科へ6名、他大学が9名です。また、専攻科修了生は、北海道大学大学院、東北大学大学院進学が各1名で、就職者は4名（内2名が公務員）です。

今年度の5年生は在籍36名で、就職希望が22名、進学希望が14名となっております。就職希望者の内、15名が民間企業を、7名が公務員を志望しています。専攻科修了予定者は、2名が大学院進学、2名が公務員、2名が企業を希望していません。

【本コースの状況】 4月より、新任教員として李善太先生が助教として赴任しました。専門は水環境工学であり、今年度で定年となる矢口淳一先生の後を引き継ぐことになると思います。

【最後に】 コロナ禍の中で、多くの卒業生の皆様も大変な状況にあるかと思ひます。心よりお見舞ひ申し上げます。今後も引き続きのご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

（環境都市・建築デザインコース長 藤原広和）

令和2年度 事務局短信

★第26回総会について

今年9月に八戸で第26回総会を開催する予定でしたが、今年度につきましては、コロナ感染の地方への広がり等の懸念から、開催を見合わせることにいたします。

なお、次年度の予算案、次回総会の開催案等につきましては、11月に開催予定の理事会を、理事会・評議会に拡大して開催し、審議頂くことにいたします。

★ホームページ（HP）について

同窓会のホームページ（<http://www.hachinohe-ct-dsk.jp/>）を開設しております。これに伴い、HP上からの会費等のクレジット支払いや、住所変更等の書式ダウンロードも可能となります。なお、当面、従来の郵送による会費納入のお願い、住所調査も併用いたします。

★10年会費（10,000円）納入のお願い

昨年度は、諸事情により住所調査葉書及び10年会費請求文書を郵送できませんでした。したがって今年度は、平成11年・12年度3月卒業（MEC-32・33回生、Z-27・28回生）および平成21年・22年3月卒業（MEC-42・43回生、Z-37・38回生）の方が10年会費納入期にあたります。HP上から会費をクレジットカードにより支払いをお願いいたします。平成30年度の第25回総会で、永年会費への移行（年齢による永年会費の低減措置あり）および会費の変額が承認されました。具体的には、同窓会HPを参照いただきたいのですが、正会員及び準会員は10年会費として10,000円を納めるものとします。但し、永年会費として一時金（～29歳で30,000円、30～39歳で25,000円、40～49歳で20,000円、50～59歳で15,000円、60歳以上で10,000円）を納めた方は、その後の会費を免除します。また、それ以外の同窓生で未納の方も会費納入をお願いいたします。

（注）封筒に添付されている宛名シールに星印がありますが、星印の数が10年会費納入までの残りの年数を示しています。従って、星印の無い方が会費を納入する必要があります。

★住所調査葉書

同窓会名簿データ更新のため、住所や職場の変更のあった方は同封の葉書にて同窓会宛に返送してください。また、同窓会では経費削減のため会報発行、事務連絡を電子メールで実施することを検討しています。この機会にE-mailアドレスの記入をお願いいたします。

なお、同窓会名簿で非公開としたい情報は、はがきのチェック欄にレ印を記入ください。ただし、同窓会の会員データとして情報が必要ですので住所等は必ず記載してください。

暫くの間、同窓会から郵便物が届かない方は、ホームページ（HP）から住所記載の書式をダウンロードし同窓会まで郵送により連絡してください。

★会員名簿（平成 29 年度版）の注文方法のお知らせ

会員名簿（DVD 版）を平成 29 年 12 月に作成しました。平成 29 年度版の名簿の購入を希望される方は、HP 上からクレジットカードにより代金（送料込 1,500 円）の支払いをお願いいたします。支払をお忘れにならないようご注意ください。

★令和元年度の事業報告

令和元年度は以下の事業を行いました。

年度	月	項 目
令和元年度	4/5	事務局打ち合わせ会議開催（メール会議）
	6/1	正副会長、事務局打ち合わせ会議開催（八戸）
	6/1	理事会、評議会開催
	10 月末	会報第 45 号 WEB 発行
	11/16	理事会、学校関係者との懇談会
	3 月中旬	新入会員（第 53 期生）に入会資料郵送（卒業式中止のため）

★同窓会からの郵便の送付先について

同窓会からの郵便の送付先を、勤務先にしたい方は住所調査葉書に記載欄を設けておりますのでご利用ください。

★クラス会活動補助金について

同窓会では、クラス会活動の活性化を目的に「クラス会活動補助金」が予算化されております。活動助成金として、10 名以上の集会に対し、年 1 回、2 万円を上限に参加者数×千円を支給します。連絡先を明記したクラス名簿およびクラス会報告（写真などを含む）が義務付けられます。

★その他

同窓会は個人情報保護法の規制団体ではありませんが、連絡いただいた情報の管理は厳格に行っております。また、住所等の情報について特別な事情がある場合には同窓会事務局まで連絡してください。